

教習所なんて、
卒業したら
二度と来んやる。
普通。

自動車教習所は、免許を取得するために、
運転技術や交通ルールについて学ぶ場所です。

「勉強するのが面倒くさい」
「指導員にとやかく言われるのはうっとうしい」
「なんだか雰囲気が暗くて古くさい」

私たち、ネヤガワドライビングスクールは、
そんなふうに思われがちな教習所のイメージを
変えたいと思っています。

先生に
言われた言葉、
今でも
覚えてるわ。

四輪教習を受けにきたAくんは、見た目からしてやんちゃで、危なっかしい雰囲気の子だった。免許取得後、いかにも違反を起こしそうな彼に対し、指導員の木岡は、運転の仕方だけではなく、ときに凶器となる車という乗り物の怖さや、人の命の尊さについて、根気強く教え込んだ。

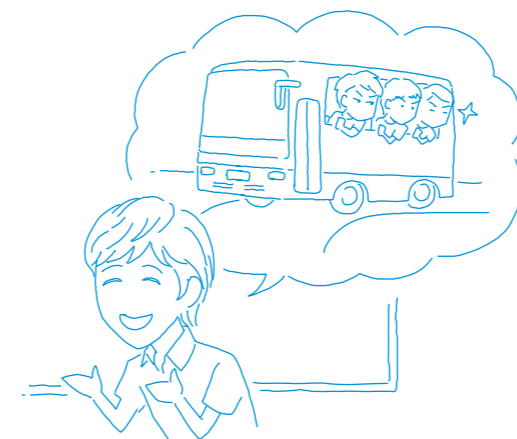
相手によって伝え方は変える。Aくんのように危機感を持たせるときもあれば、逆に、冗談を言ってリラックスさせるときもある。また、先生と生徒という枠を超え、友人のような関係性を築く場合もある。どんな形でもいいので印象に残すことができれば、それが「そういえば、あのときこんなことを言われたよな。気をつけよう」という、事故や違反に対する「心のブレーキ」となるのだ。

先日、木岡は十数年ぶりにAくんと再会した。新たに二輪免許を取りにきた彼は、「先生に言われた言葉、今でも覚えてるわ。だから、これまで無事故・無違反やったで」と、笑顔で話してくれた。

あおり運転による事故が相次ぎ、社会問題化しています。誰もが被害者にも加害者にもなりうるリスクがあるなか、教習所が担う責任は大きい。正しく理解できるまで伝え続けることはもちろん、私たちは「心に残る教習」を常に意識しています。心に残る教習こそが、乗る人の命を守る最高の経験になる。そう信じているのです。



日本一の指導員は、 お笑い好き？



「社員研修旅行の移動中のことなんですけど、バスが左に曲がるうとした瞬間、乗っていた全員が一斉に左後方の安全確認！思わず大爆笑になりました。…それだけ左折するときの事故って多いんですよ〜」。そんなエピソードトークをすると、教室内がほっこりした空気に包まれる。

ネヤガワドライビングスクールの指導員は、自分の経験談を織り交ぜながら学科教習をすることが多い。通常の学科教習は教材を読むだけだったり、ビデオを観るだけだったり、退屈なものになりがち。しかし、どれだけ正しいことを教えたとしても、伝わらなければ意味がない。知識の定着に笑いが一役買うこともあるのだ。

当社には、学科教習コンテスト(全国指定自動車教習所学科教習競技大会)で日本一に輝いた指導員が2名もいる。どうやって伝えるのか工夫するのも、指導員の腕の見せどころ。彼らは単に、関西だから笑いを取るうとしている、わけではない。

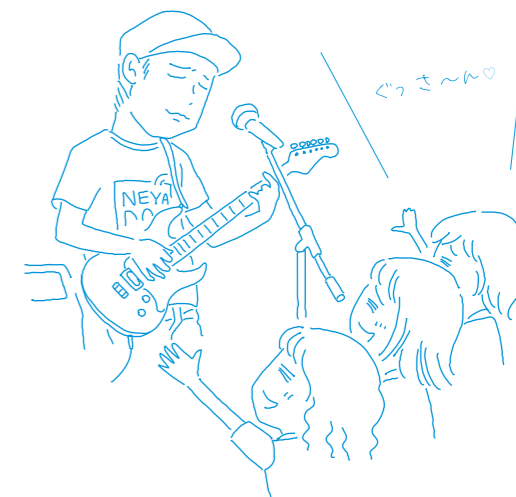
ネヤガワドライビングスクールには、技能コンクール(全国自動車教習指導員安全運転競技大会)の二輪部門日本一も在籍。年齢や社歴に関係なく挑戦を奨励する風土があり、自己研鑽できる環境が整っています。また、コンテストやコンクールの前には、部署を超えてお互いにアドバイス合っています。

高校生から、 「ぐっさん」と 呼ばれている。

「三ない運動」という自主規制があるため、大阪の高校生はバイクの免許を取れないし、バイクも買えないし、もちろん運転もできない。とはいえ高校を卒業すれば、いずれ“そのとき”はやって来る。教習所にとっての「未来のお客様」との接点をつくるため、教務課の阪口は、なにかできないものか、と考えた。

そこで目つけたのが部活動の支援である。彼はもともと音楽好きで、社員で結成された「ネヤドラバンド」のギタリストでもある。その経験を活かし、高校の軽音楽部に所属するバンドマンたちのライブイベントをプロデュースすることにしたのだ。地道に支援し続けることで、阪口は一躍有名人に。49歳で課長という肩書きがあるにもかかわらず、高校生からは親しみを込めて「ぐっさん」と呼ばれている。

少子化や若者の車離れにより、免許取得人口は減少傾向にあります。待っているだけでは、お客様はやってこない。自ら行動を起こして集客し、「選ばれる教習所」になる必要があります。ネヤガワドライビングスクールは、「まずやってみる」の精神。トップダウンではなく現場の考えを尊重しています。一方、新しいもの好きの多い社員たちは、過去の事例や慣習にとらわれず、「じゃあやってみよう」の気概を持って仕事に取り組んでいます。



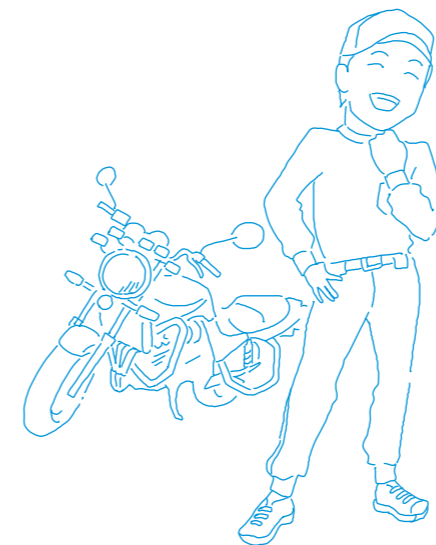
仕事も、遊びも、
本気でやる。
だから楽しい。

休日、静岡や島根の同業者のもとを訪れる二輪教習の指導員がいる。スキルアップのため？もちろんそれもあるが、ただ単にバイクに乗ることが好きなのかもしれない。

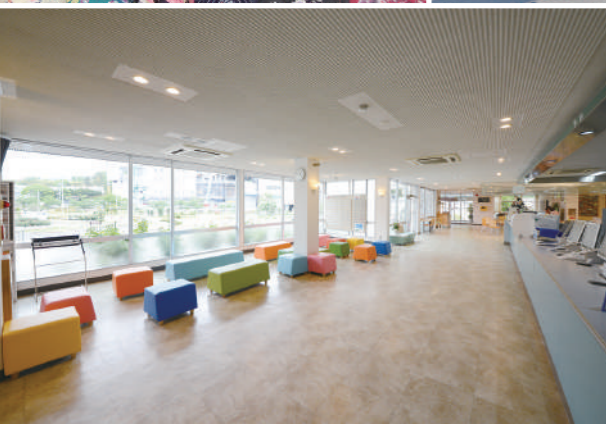
社内には、テニスやゴルフ、釣りなど、さまざまなクラブやサークルがあり、「この指とまれ方式」でメンバーが集って活動している（そのすべてに参加する猛者もいる）。

毎年恒例の忘年会。前回、宴会芸に立候補した44歳の指導員は、わざわざ京都のバック転スクールまで行って練習をしていた。本番は足のテーピングがなんとも痛々しかったが、某ダンス系ボーカルグループになりきったパフォーマンスは圧巻だった。

仕事も、遊びも、本気でやるから楽しい。そのわくわく感を伝えることで、お客様にも「ネヤドラに通うのって、めちゃめちゃ楽しい」と思ってもらいたい。



ネヤガワドライビングスクールは、普段は車が走る教習所のコース内で、BBQや盆踊り、花火大会などのイベントを開催しています。100名を超えるネヤドラ卒業生が参加し、特に社員で結成された「ネヤドラバンド」のライブは毎回大好評。私たちは、卒業後も気軽に訪れることができる教習所づくりを実践しています。



「卒業おめでとう。でも、なんかさびしくなるなあ・・・」

「ありがと、先生。じゃあ、来週にでもまた遊びにくるわ」

「教習所なんて、卒業したら二度と来んやろ。普通」

「え？だってネヤドラって、普通の教習所ちゃうやん！」

車間距離は空けるけど、
ココロの距離は縮めたい。

ネヤガワドライビングスクールは、
「日本一通うのが楽しい教習所」
を目指しています。

もっと楽しく、もっとセーフティに。
NEYAGAWA
ネヤガワドライビングスクール

Recruiting Guide

株式会社寝屋川自動車教習所

ネヤガワドライビングスクール 〒572-0855 大阪府寝屋川市寝屋南1-1-1

お問い合わせ(採用担当:山本・弘田)

TEL. 072-822-0464

<http://www.neyagawa-ds.co.jp/>

ネヤドラ

